

思 索

1-1

S. 63. 8. 23

- 《心の中》の「き」は「世界」の立止現われに「即ち」された「下」から《身》と《心》との関係は、世界の中の一の《我》と世界全体との関係となる。  
— 大森哲彦 —

《私》は個物と全体との関係である。

個物から見たら《私》は消える。

- 大森哲彦 《他我問題》

一人一人がかけかゝる「世界」が「世界」である。

即ち他と「かゝる」きかゝる「と」である。

自分の世界と他者の世界とは原理的に全（か）か（せ）に「かゝる」である。

- 《なにぞもな...もの》 ... 久松真一の言葉。

- 事物と「かゝる」相貌と「かゝる」元論は「かゝる」である、事物自体が相貌と「かゝる」表われの「かゝる」である。

— 大森哲彦 —

- 私か死ぬとき、世界もまた「かゝる」死ぬ。  
即ち私か「かゝる」かゝる「かゝる」自体世界自体か「かゝる」かゝる「かゝる」である。

- 全風景が《私》に「かゝる」。かゝる「かゝる」全風景は《私》と「かゝる」である。何故なら、私は今現在「かゝる」自身と「かゝる」かゝる「かゝる」。昔き日「かゝる」かゝる「かゝる」は「かゝる」

若き日「私自身、本物の私を立す理力なり」とは

.....  
若き日「私」は今理に「私」に好む立す理力なりとす。

若き日「私」と理に只今「私」とはと「私」の  
関係にあるとす。

・ 視座に於ける外部と内部

視座も「私」は全て外部にあるとあり、私自身も、世  
界も「私」は外部にある。

「私」視座には全て「私」の視座がある。世界も  
全て「私」自身も「私」の視座、これは「私」の限り。

内と外との区別はない。

視座の日は遠近法の中心にある。

2. 人が死ぬ。その時、瞬間が(たは)定刻に、電車がはしり、  
 自動的にサイレンがなる。世間は39秒に~~2.117秒~~人:無関心  
 にはな...か!

否、35秒にはな...。39秒に2.117秒:人々も世帯もまた死ん  
 2.117秒だ。39人9生きた世帯は39人9秒だ。世帯はた  
 だの一時も39人9秒は... 立ち去る=これはなかつた。39人が  
 苦しむ的。世帯もまた苦しむ的だ。39人が苦しむ的  
 世帯もまた...色に...。

39人がきた電車の音も、自動的に2.117秒も39人々々  
 に...。

0. 神は沈黙... (下)に...。神は月→...:意味は...  
 5秒は... 12... 海... 神...  
 39は神と対象... 12...。'神'は... 神'  
 ...。39... 神... 神...  
 (前) (中) (後)

神は39... 12... 神...!  
 か苦しむ的。神もまた39... (39...  
 ... 神... 神... 神...  
 ...。